

95.11.7

文化

民家の屋根裏で発見

今年、伊能忠敬生誕二百五十年にあたる、江戸時代の中ごろ、五十年代初めに隠居してから地図の勉強を始めた忠敬は生涯に九度、計三万五千キロを旅して全国を測量し、現代に劣らない精度の高い地図を製作するといふ偉業を成し遂げた。その忠敬ゆかりの地図が今、フランスから里帰りの中である。

ほる。九一年二月六日付の日本経済新聞夕刊社会面に、「伊能忠敬の地図がフランスの民家の屋根裏から見つかった」という記事が載った。私は二十年前、前年から忠敬が残した膨大な数の地図の所在や、製作の経緯などを研究し続けてきた。記事を見て、こんな地図かぜひとも見たくなり、さっそく関係者に問い合わせた。

伊能忠敬の地図は大図、中図、小図の三種類がある。フランスで見つかった地図は中図だった。中図は八枚で日本全体を表してあり、それぞれ縦横五十五センチから約三センチ、横一センチ前後の大きさがある。国内で、八枚が完全にひとそろいになつていふものは東京国立博物館、成田山弘教図書館など数カ所しかない。フランスの所有者、フランス国立職業高等学校の教授イブ・ペレ氏の住所は分かつたものの、実際にこの目で地図を確認するまで、もどかし思いの

作には測地原図を紙の上に置き、針で刺して原図を写す。だから伊能測量班が作成した図には必ず針跡がある。針穴があつて、大名の依頼などによって控え図と同じように丁寧に製作されたものも今は副本と厚ぶ。

ペレ氏の夫人、ニコルさんがブルゴニーにある古い家から母親から生前贈与された。そして今から二十年前、ペレ氏が家を改装しようとして屋根裏を整理した際に地図が見つかった。家の所有者は何人が替つたらしいが、その一人に獣医がいたという。幕府は軍事顧問団にフランス

闘兵衛は、元の名を箱田良助といひ、美州の出身で忠敬測量隊のメンバーの一人だった。非常に優秀な人物で、榎本家に養子に迎えられた。武揚は伊能図を知っていたはずである。

貯金オンライン・システムの設計責任者を務めていた私は、全国三万にも及ぶ郵便局をオンラインでつなぐという壮大な計画をどのように進めたか、よいものが、思案の毎日だった。

伊能忠敬の魅力は尽きない。つい最近も、伊能家から隠居譲り状が見つかった。商人として成功し隠居した後も資産を保有していた忠敬が、その資産を息子や娘に譲るといふ書き付けで、それによる遺産は千両にものほり、半分の五百両を長男に譲ると記されていた。現役を引退しても、榎の方はいつもと振しなかつた元氣はつらつら忠敬像が浮かび上がってくる。

仏を旅し、帰った伊能地図

◇流出のナゾ追ひ、忠敬生誕20年に国内公開◇

渡辺 一郎



人を雇っていた。調べた結果、箱館戦争に参加した軍人が獣医だったことが分かった。一方、箱館に立てこもつた幕府軍艦奉行、榎本武揚の父、團兵衛は忠敬と深い関係のある人物であった。

その名が使われ過ぎた反動だろうか、戦後はその業績を正当に評価されない傾向にある。このため、専門的に研究している人は少なく、いつの間にか私は「伊能図の専門家」ということになつてしまった。

伊能忠敬の地図は新らしい。本に違いないと確信した。しかし問題はなぜ伊能忠敬の地図がフランスに渡つたかである。幕末、ドイツの医師シーボルトが団扇を盗っていた伊能忠敬の地図を持ち出さうとした事件は今でもシーボルト事件として記憶されている。私は、ペレ氏に、入手の経緯を根柢り葉ほり尋ねた。